

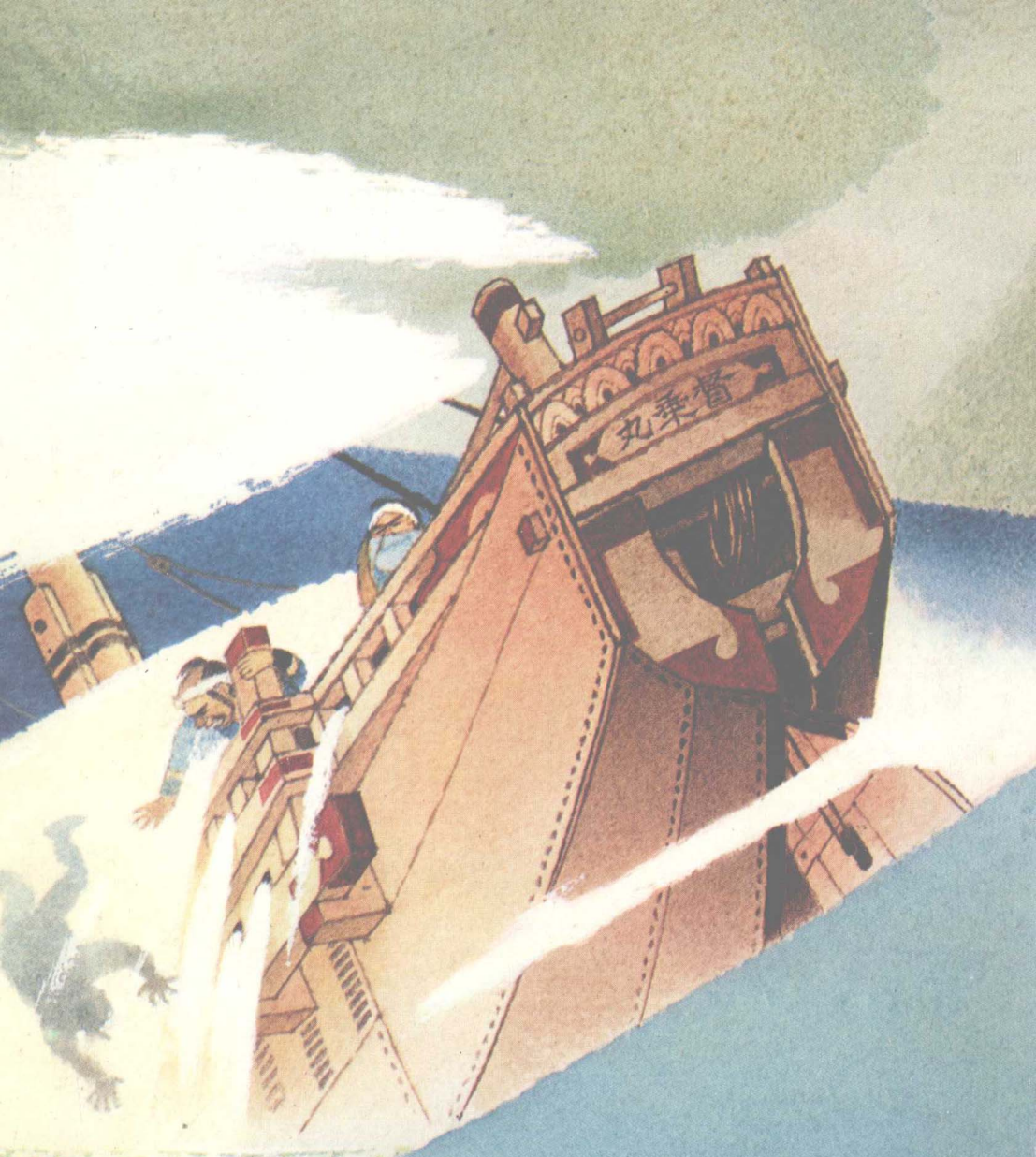
たい へい よう ひよう りゆう き
太平洋漂流記

前川康男(文) 高橋国利(画)

たい へい よう ひよう りゆう き
太 平 洋 漂 流 記

まえ かわ やす お たか はし くに とし
前川康男(文) 高橋国利(画)





「親方！ 親方！ おちたぞっ！」

「海におちたのかっ！ だれだ、おちたのはだれだ！」

長右衛門は、暗い海をじっと見つめました
が、波にのまれたのか、船から遠くはなれた
のか、要吉のすがたは見えません。

(19ページ)



船がどのあたりにいるのか、長右衛門は心からいって、御幣をふりました。すると、一升ますの中に入れた紙の玉がスーッとくっついてまいりました。(31ページ)

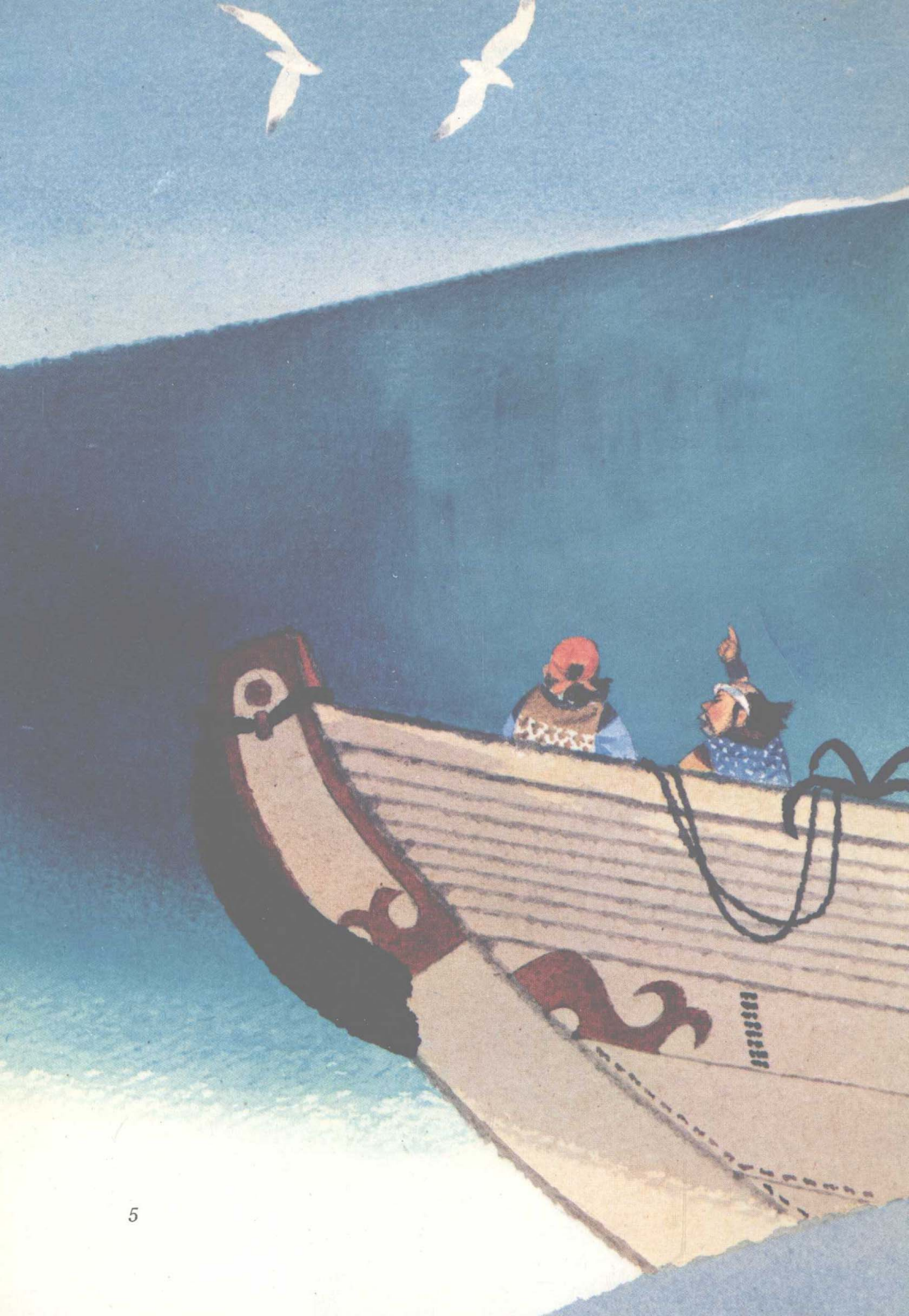




まっ白い鳥^{とり}が二わ、どこからともなくふわりとと
んできました。

「鳥^{とり}だ、鳥^{とり}だ！」

みんなは、白^{とり}い鳥^{とり}を金比羅^{こんぴら}さまのおつかいだと、
いっしょうけんめいにおがみました。(47ページ)

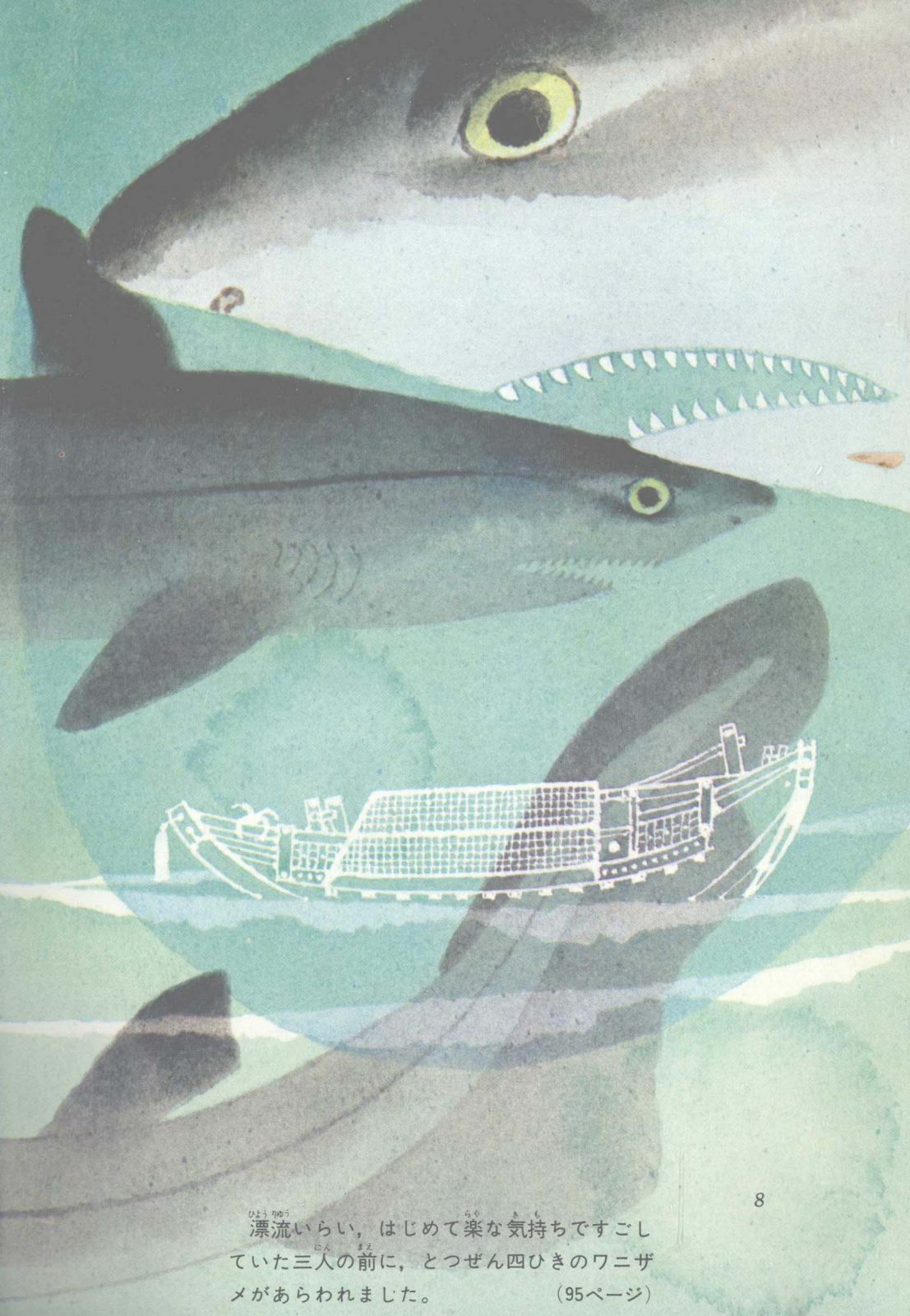


ひょうりゅう
漂流四か月めになってももなく、みんなのからだはだんだん黒っぽい色になり、全体がはれあがってきました。そして、からだのだるく苦しくなり、ぐったりしてうげなくなりました。

(75ページ)







ひょうりゅう
漂流^{ひょうりゅう}いらい、はじめて^{はじめて}楽な^{らく}気持ち^{きもち}ですご
していた三人^{さんにん}の前^{まえ}に、とつぜん四ひきのワニザ
メがあらわれました。(95ページ)

この本をよむ人のために



「漂流記」には、いろいろすぐれたものがたくさんありますが、「漂流記」というと、まずおもうかぶのは、「ロビンソン・クルーソー漂流記」ではないでしょうか。このものがたりは、イギリスのダニエル・デフォーという作家がかいた、長い長い漂流物語です。もともと、おとなの小説としてかかれたものですが、一七一九年に出版されるとまもなく、子どもの本としてもかきなおされ、世界じゅうの子どもたちによまれてきました。

この本は、「聖書」のつぎに、たくさんの人によまれた本といわれています。

なぜ、そんなに、たくさんの人によまれたのでしょうか？ それは、やはり、この物語の主人公クルーソーが、絶海の孤島にながれつき、その島でたったひとり、あらあらしい自然とたたかっている、おもしろいものがたりだからでもあります。もちろん、ぼうけんとスリルにあふれている？」「はたして、どれだけ苦難をきりぬけられるか？」という、おそろしさにたいするきょうみもあるかとおもいます。

このものがたりのものと題は、「ロビンソン・クルーソー漂流記」ではなく、「ヨークの船のロビンソン・クルーソーのふしぎにして、おどろくべきぼうけん。ならびに海ぞくにたすけられたる後日譚」という長いもので、この題でもわかるとおり、ほんとうにあつた漂流のきろくではありません。

ものがたりをかくきつかけになつた海難じけんはありましたが、そのじけんそのままではなく、作者のデフォーが空想をまじえ、自分のかんがえをのべようとしてかいたものがたりです。

「漂流記」には、作者が自由に空想をまじえてかいたものと、もう一つ、漂流のたいけんを、ありのままにかいたきろくてきなものと二つのしゅるいがあります。「ロビンソン・クルーソー漂流記」と同じような物語には、ジュール・ベルヌのかいた「十五少年漂流記」、スイフトのかいた「ガリバー旅行記」、アラビアンナイトの中の「船のりシンドバットのぼうけん」、日本の作品では、野上弥生子の「海神丸」、井伏鱒二の「ジョシ万次郎漂流記」などがあり、きろくてきなものは、太平洋をイカダで横断した学者ハイエダールの「コンティキ号たんけん記」、フランス船の海難じけんをえがいた「メデューズ号のいかだ」、日本のものでは、「アメリカ彦蔵自伝」、鳥島にながれついた長平という船のりの「無人島漂流記」などがあります。

どれも、すぐれた「漂流記」ですが、とくに、たいけんをもとにしてかいた漂流きろくは、歴史をしるうえにも貴重なものです。大自然といかにたたかい、生きぬいたか、人間はどれだけ苦

難にたえられるか、つまり、人間のこんくらべのきろくということができましよう。

日本は、島国であり、海の国です。ですから、漂流のきろくもむかしからたくさんのおり、外国の船とくらべて、江戸時代の和船はあらしに弱く、航海術も幼稚なので、それだけに悲さんなものが多くいます。とくに日本では十月から一月にかけて、強い北西風がふきあれるため、漂流者は、寒い海で、長いあいだ、つらいおもいをしなければなりませんでした。

この「太平洋漂流記」は、江戸時代のすえころ、尾張の国（今の愛知県西北部）の千二百石つみ「督乗丸」という船が、冬の北西風にふきながされた、じつさいのきろくです。

へもし、あなたが、この船の船頭だったら？▽

もくじ

あらしとのたたかい……………	16
帆をおろせ！	髪をきる
おみくじをひく	はしけをながせ！
はかないのぞみ……………	38
はだか船	八丈島やーい
米とマメと水	白い鳥 青い鳥
暑い冬……………	67
正月の酒	黒い血
十人のなかま	天のめぐみ
これでさいごか……………	94
ワニザメたいじ	海へ……
さいごのうらない	船玉の話

たすけ船がね

125

オニのような大男

うまい水

日本の地図ちず

ここは、長崎？
ながさき

異国いこくのできごと

160

口ふえをふく船長せんちょう

日本の歌うた

城しろのようなやしきで

きりにかすむ海うみ

やつとふたり

192

たったふたり

大グマの襲来しゅうらい

おかゆのゆげ

夜明けの村よあけ

解説かいせつ

214

編集委員

石 森 延 男

(昭和女子大学教授)

福 田 清 人

(日本児童文芸家協会理事長)

井 本 農 一

(お茶の水女子大学教授)

たい へい よう ひよう りゆう き
太 平 洋 漂 流 記

まえ かわ やす お たか はし くに とし
前川康男(文) 高橋国利(画)

